

1. 科目名（単位 数）	健康相談活動の理論と方法（2 単位）	3. 科目番号	EDHE3304
2. 授業担当教員	石垣 久美子		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	養護教諭専修コースを履修しており、2 年次の養護教育学の単位を取得した後に履修することが望ましい。 また、看護学を同学期に履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	児童生徒の心身の健康問題の複雑化、多様化に伴い、学校におけるカウンセリングの機能の充実が急務となっている。その中でも養護教諭は、児童生徒の身体的不調の背景に、いじめ等の心の健康に係わっていること等のサインにいち早く気づく立場にあるとされ、その専門性をいかした心と体、両面への対応に対する期待は年々高まっている。 本講義では、養護教諭の専門性を最大限に発揮した統合的アプローチとも言える「健康相談活動」の基本的理論について習得する。また、保健室来室場面を想定した事例検討やロール・プレイを通して、児童生徒が抱える様々な問題に対応するための実践力を向上させる。		
8. 学習目標	1) 保健室における健康相談活動のプロセスを理解し、説明できるようになる。 2) 健康相談活動の遂行に必要な基本的知識と技術を身につけ、応用することができるようになる。 3) 保護者・学級担任・専門機関の専門職との連携の方法を理解し、説明できるようになる。 4) 集団を対象にした心の健康教育について実践することができるようになる。 5) 専門職としての研修の在り方を習得できるようになる。		
9. アサシメント （宿題）及びレポ ート課題	・授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する小レポートを出題する。 ・最終課題レポート：「健康相談活動の進め方」について、自らの考えを記述する。（800字程度）		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】森田光子『養護教諭の健康相談ハンドブック』東山書房。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1) 保健室における健康相談活動のプロセスを理解し、説明できるようになったか。 2) 健康相談活動の遂行に必要な基本的知識と技術を身につけ、応用することができるようになったか。 3) 保護者・学級担任・専門機関の専門職との連携の方法を理解し、説明できるようになったか。 4) 集団を対象にした心の健康教育について実践することができるようになったか。 5) 専門職としての研修の在り方を習得できるようになったか。 ○評定の方法 授業ごとに出題する小レポート（総合点の 30%）、授業中のグループ活動等における積極的な発言・参加（同 30%）、最終課題レポート（同 40%）の結果から総合的に判断する。また、本学の規定に定められている、15 回中 12 回以上の出席が単位修得の条件であることを加味する。		
12. 受講生への メッセージ	健康相談活動は学際的な分野であるため、広く高度な専門的力量が求められています。難しい側面もありますが、養護教諭だからこそできる独自性の強い活動でもあります。様々な訴えを持って保健室を訪れる子どもたちに対して、養護教諭としてどのような支援が可能であるのか、そのためにはどのような知識や技術が必要なのか、具体的なイメージを持ちながら受講してほしいと思います。子どもたちのもつ健康課題の解決に向けて、その力を発揮できる養護教諭を目指して、一緒に学んでいきましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ 健康相談活動の基本的な考え方 ①健康相談活動の定義 ・養護教諭に期待されていることとは？	事前学習	養護教育学での既習事項に目を通し、健康相談活動の概要を復習しておく。
		事後学習	健康相談活動の概念を整理し、まとめる。
第 2 回	②児童生徒のメンタルヘルスの現状と課題 ・保健室利用状況に関する調査から	事前学習	事前に配布する保健室利用状況調査の結果を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	児童生徒の保健室利用状況に関するディスカッションを総括し、自分の考えをまとめる。
第 3 回	③健康相談活動プロセスと基本的留意事項 ・養護教諭の職務の特質、保健室の機能 ・養護教諭に求められる役割 ・医学的要因と心理社会的要因の見立て	事前学習	教科書の健康相談活動のプロセス (p. 11)、見立てに関連する事項 (pp. 27～33) を熟読し、考えをまとめておく。
		事後学習	養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談活動の進め方についてまとめる。
第 4 回	④健康相談活動に活かす心理学的諸技法 ・基本的な相談技術と留意点 ・傾聴的応答の基本	事前学習	教科書のカウンセリングの技法に関する事項 (pp. 86～88) を熟読し、予習を行う。
		事後学習	傾聴的応答の基本事項を整理し、ポイントをまとめる。
第 5 回	⑤傾聴的応答のロール・プレイ	事前学習	教科書のカウンセリングの技法に関する事項 (pp. 86～88) を熟読し、予習を行う。
		事後学習	傾聴的応答のロール・プレイを振り返り、自分の聴き方の良い点、改善点をまとめる。

第6回	Ⅱ 健康相談活動を想定したロール・プレイ ①教科書の事例をもとにしたロール・プレイ (救急処置場面での傾聴応答)	事前学習	ロール・プレイの題材となる教科書の事例 (p. 21) を熟読し、養護教諭の対応についての理解を深めておく。
		事後学習	ロール・プレイの内容を振り返り、救急処置や保健指導の場面での傾聴的応答のあり方について整理する。
第7回	②心理的ストレスから体調不良を訴える児童の事例 (友人関係不和)	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、健康相談活動のプロセスを確認しておく。
		事後学習	養護教諭役の対応について評価し、その対応のポイントや改善点等についてまとめる。
第8回	③心理的ストレスから体調不良を訴える生徒の事例 (受験ストレス)	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、健康相談活動のプロセスを確認しておく。
		事後学習	養護教諭役の対応について評価し、その対応のポイントや改善点等についてまとめる。
第9回	④身体的課題から、学校不適応に至った児童の事例 (肥満児の頻回来室)	事前学習	頻回来室する児童生徒への対応のあり方について調べ、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	養護教諭役の対応について評価し、その対応のポイントや改善点等についてまとめる。
第10回	⑤保健指導や生徒指導が必要な生徒の事例 (月経痛)	事前学習	月経痛の医学的背景について調べ、その対応のあり方について、考えをまとめておく。
		事後学習	養護教諭役の対応について評価し、その対応のポイントや改善点等についてまとめる。
第11回	Ⅲ 健康相談活動の事例検討 ①体調不良を訴えて、登校を渋りはじめた児童の事例 (保健室登校)	事前学習	保健室登校児童生徒への対応のあり方について調べ、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめる。
第12回	②心理的ストレスが、身体症状に発展した生徒の事例 (過呼吸発作)	事前学習	過呼吸発作の救急処置について調べ、その対応のあり方について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめる。
第13回	③精神疾患が疑われる生徒の事例 (自傷行為)	事前学習	自傷行為の医学的背景について調べ、その対応のあり方について、考えをまとめておく。
		事後学習	事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめる。
第14回	Ⅴ 集団を対象とした心の健康教育 ・ストレスマネジメント教育の体験	事前学習	保健学習、保健指導の位置づけや、養護教諭が実践する際の留意点について調べておく。
		事後学習	講義時間内の心の健康教育の体験を総括し、自分の考えをまとめる。
第15回	まとめ：「健康相談活動の進め方」 ・最終課題レポートに記載した内容に基づき、グループディスカッションを行う。 ・「健康相談活動の進め方」のポイントを共有する。	事前学習	最終課題レポートを作成し、これまでの講義内容をまとめておく。
		事後学習	グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえて、全講義内容を振り返る。